

Focus on!

国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

名古屋日伊協会 (令和4年度国際交流推進功労者表彰受賞団体)

＜名古屋日伊協会設立＞
 1978年（昭和53年）11月22日に、「名古屋日伊協会」は設立されました。その頃、民間放送で唯一ローマに支局のあったCBC中部日本放送が、創立30周年記念事業として『イタリアルネッサンス大美術展』を企画開催（共催：中日新聞社）したのを機に、当時のトルネッタ駐日イタリア大使の強い薦めにより、また財界・学界のご支持・ご協力を得ての発足でした。以来、月例会やイタリア語教室の開講、会報の発行を通じて東海地方とイタリアとの文化交流の促進、東海地方で両国の相互理解を深める活動を続けています。



▲当時のデオートデー在大阪イタリア総領事もエール!

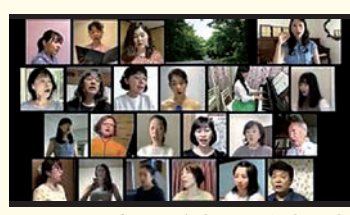


▲“コロナに負けるな”とイタリアにエールを贈る大石名古屋日伊協会会長(2020年5月)

＜トリノへ届け! 友好のエール&歌声＞
 最近では、コロナ禍で最初に甚大な被害を受けたイタリア（中でも名古屋市と姉妹都市関係にあるトリノ市を含む北部地域）へ応援動画メッセージとお見舞金を贈るキャンペーンを実施しました。また名古屋市の国際交流課とイタリア音楽振興会（金澤澄香代表）が主催し、名古屋市民の皆さんと創り上げたりモート合唱『行け我が思い黄金の翼に載って』にも企画参加し、エール（アンドラ・トゥット・ベネ＝「きつとうまくいく」を意味するイタリア語）を組み合わせた動画を姉妹都市トリノ市へ贈るお手伝いが出来ました。そして、思いがけず令和4年度の「国際交流推進功労者表彰」を受賞させて頂きました。心より感謝致します。ありがとうございました。今回の受賞を励みに、このコロナ禍を乗り越えて、以前のように地道にイタリアとの交流活動に努めていきたいと会員一同あらためて決意した次第です。



▲ブレンチベ新在大阪総領事にお見舞金を手渡す大石会長(2021年11月24日CBCテレビにて)



▲リモート合唱に参加した名古屋市民の皆さん

Focus on!

世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

ヨハネスブルグ日本人学校 (太田 尚子 先生)

アフリカと聞くと、砂漠や草原に灌木が生え、野生動物の群れるサバンナなどを連想される方が多いのではないのでしょうか。色で表せば、茶色、黄土色。
 しかし、南アフリカはそのイメージとは大きく異なります。南アフリカは花の王国と言われるほどで、多くの花木や草花が見られるのです。私はヨハネスブルグ郊外の住宅地に住んでいますが、我が家の周辺は花に満ちています。
 私がいつも散歩で歩く通路には、家々の前、角、通路の両側など、至る所に花壇が造られ、四季折々の花が咲いています。そこでは、ガーベラ、クンシラン、アガパンサス（紫君子蘭）、ストレリチア（極楽鳥花）、カラー、トリトマなど、日本でも馴染みの深い花を沢山見ることが出来ます。ところで、ここに挙げた6つの花々ですが、すべて南アフリカが原産地です。日本で見ることの多い花々だけに驚きです。
 南アフリカでの花の王様はプロテアです。もちろん南アフリカ原産で、90種類ほどもあり、切り花として、フラワーショップでは当然のこと、食品スーパーの一角でも、よく売られている人気の花です。特に、キングプロテアは南アフリカ共和国の国花であり、花の直径が20～30cmにもなる美しい花です。花言葉は「王者の風格」、まさにそのものです。
 ヨハネスブルグの道路を車で走っていると、いろいろな花木が目に入ります。真っ赤な花のブラシの木、赤に少し青みがかかったブーゲンビリア、白い花のハナミズキや赤い花のサルスベリなど、これらも日本でお馴染みです。そして、10月になればどこを走行していても目に入るのがジャカラランダです。
 道路の両側に植えられた大きなジャカラランダが青紫の花でトンネル状に頭上を覆い、その下の路上に青紫のカーペットが敷かれている様にはうっとりします。頭上の花の隙間から、真っ青な空が透けて見えるのも素敵です。この花は花期が長く、1か月以上楽しめます。ヨハネスブルグはカラフルです。



▲南アフリカ共和国の国花 キングプロテア



▲散歩で歩く通路にある花壇の花々(右) ジャカラランダのトンネルと絨毯(左)